

2025年度



夏休み親子読み感想



たくさんの感想 ありがとうございます



【児童の感想】

- 「さいがいでいえがこわれて、いまみたいにせいかつができなくなるひとがいるんだよ。」と、パパとママがいていました。ありがとうございます、いえるようになりたいです。
(1年「ありがとう」)
- 絵を見たらみんなをシェアせにできるし、心があたたかくなるのがよかった。ぼくはサッカーとピアノで、人をえがおにしたいです。
(2年「とくべつな方ほうで」)
- うつくしい言葉を使うことは、すばらしいと思いました。自分が何気なく使った言葉が時には、相手にとっていやな気持ちになるかもしれないので、相手の気持ちを考えて、言葉には気をつけたいと思いました。
(3年「礼ぎの大切さ」)
- 難しい研究や大変な研究でも「いつか必ず役に立つ」という心を捨てないので、とてもいいことだなと思いました。諦めない心があったから、今でも大切に保管されたり「大上宇市」の石碑がたてられたりしたんだなと思いました。
(4年「いつか必ず役に立つ」)
- この話を読むと、やっぱり自分一人一人にしかない熱い思いをもち、それがかりに自分の夢でも、その熱い思いをちゃんとかなえている川本幸民さんはすごいと思いました。私もそんなすてきな人になりたいです。
(5年「負けへんで」)
- この話を読んで思ったことは、自分も野球をやっているのですが、この場面で一点取られたら負けるという時、ボールが飛んでくるのがこわいなと思います。そんなときに自分のミスで負けたら、嘉様さんのように「やってしまった」という気持ちになります。それでも部長の言葉を思い出してまたがんばろうと思い、またがんばった嘉様さんは、すごいなと思いました。
(6年「忘れない夏」)



【保護者の感想】

○小学生になり、大人が不在のところでの子ども同士のやり取りが多くなりました。まだ語彙力も経験も少ないことや、自分のやりたい心の自制や他者の気持ちの想像は難しい中で「やってしまった側」になったり「悲しい気持ちになる側」になったりして学んでいくのだろうなと思います。語彙力も経験もある大人でも、どちらの立場にもなることがあり、むしろこの話のはなのように相手の反省が見えたり気まずい雰囲気がある中で、この話のはなもまさとも私たち大人の場合もそうですが、早い段階で自分の気持ちと言えたり相手の気持ちを聞いたりコミュニケーションがたくさんとれていれば、行き違いは少なくなるのになと、子どもの感想から思い考えさせられました。

(1年「からすのえんどう」)

○家でも白い猫を飼っています。子どもは、弟のようにかわいがっています。このお話の女の子の気持ちがよく分かったんじゃないかな…と思いました。どんな時でも“生き物の命を大切にできる”、“皆で力をあわせられる”優しく強い子に育ててほしいと思いました。

(2年「わたしのシロ」)

○私の通っていた小学校にも被災して転校して来た子がいました。1年ほどの級友でしたが時々、どうしているかな、と思うことがあります。辛く悲しい事がキッカケではあるけれど、結ばれた縁が良いものになればいいなと思いました。

(3年生「いつまでもわすれない」)

○「いつか必ず役に立つ」という自分の信念を持ち続け、研究し続けられるのはすごいことだと思います。きっと家族の理解、支えもあったのだと思いますが、いろんなことを犠牲にし、葛藤もあったことと思います。それでも人生をかけて信念を貫ける心の強さ、見習いたいと思いました。そして「誰かのために」という思いの上にたった信念だからこそ、貫けるのだろうと感じました。そんな生き方をしたいものです。

(4年「いつか必ず役に立つ」)

○現代は何もかも簡単に手に入るようになり、当たり前のようにあるものばかりですが、時代の変化を受け止め、時代の先に作ろうとした人物のおかげで今があるのだと感じさせられました。また、今の時代には希薄となりつつある義理・人情を感じました。自身のためではなく、皆のためさらに国のためという広く大きな視野と心を持つことの大切さを改めて考えさせられました。

(5年「負けへんで」)

○仲間と力を合わせてやることの大切さを強く感じました。勝ち負け以上に、仲間との絆や努力の思い出が心に残ることを知り、自分も周りの人とのつながりを大事に、どんな場面に直面しても前を向いていかないといけないと思いました。

(6年「忘れない夏」)